

## (熊本県立第一高等) 学校 令和 2 年度 (2020 年度) 学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人権教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「県体育保健課取組の方向」及び本校の「白梅の精神」等に則り、「健全な心身の育成」、「学力の充実」、「地域との連携」を柱に、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、心身ともに健全で叡智に富み、凜とした気品のある心豊かな人材の育成を目指す。</p> <p>そのために、全職員が教育者としての基本的資質（①教育的愛情と人権感覚 ②使命感と向上心 ③組織の一員としての自覚）や専門性（① 生徒理解と豊かな心の育成 ② 学習の実践的指導力 ③ 保護者・地域住民との連携）の向上に努めるとともに、互いの連携と協力のもと、創意工夫を生かした教育の実践に努める。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 目的と目標の明確化による共通理解に基づいた協働体制の強化  (2) 進路指導体制の充実による指導力の向上と第一希望の実現  (3) 新学習指導要領及び大学入試制度改革を踏まえた授業改善の推進  (4) 幅広い経験に基づいた自己変革力の育成を図る指導  (5) 道徳教育と人権教育の推進</p>
---

3 自己評価総括表		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	組織の連携と全職員での共通理解	学校教育目標実現に向けた組織の連携の強化	運営委員会を中心とした各部の連携強化	・各部、各委員会での入念な打ち合わせと関係部署の事前協議 ・運営委員会、職員会議による協議と情報共有 ・年度末反省、学校評価等による検証	B	直前になることが多かったが関係部署との確認は実施することはできなかった。より細部にわたる確認が課題となった。
	教育環境の整備	新型コロナウイルス禍に対応できる具体的な学習環境の整備	生徒の健康管理や授業動画の作成、生徒の質問に答える等のオンラインによるシステムの確立	職員研修の実施や外部研修会への職員の参加による具体的なシステムの周知や共通理解	A	職員研修実施後に休校中のみならず学校再開後にもグループクラスルームや動画配信等のオンラインシステムを導入することができた。
		平日放課後の有効活用	生徒の主体的な活動時間の確保	昨年度まで6限終了後に実施していたモジュール学習の朝の時間帯への変更	A	昨年までのモジュール学習を一高ゼミとし、朝課外の時間に行い思考力等を伸ばす時間として活用した。その結果、放課後の時間を生徒の主体的な活動に充てることができ

						た。
	働き方改革	働き方改革に係る環境整備	・教職員の平均勤務時間外在校時間の昨年度比25%減	・新たな学習管理システムの導入による教職員の負担軽減 ・個人ならびに各部からの業務見直しの提案後に実現可能なものについて運営委員会、職員会議で検討	B	・教職員の平均勤務時間外在校時間については、昨年度が平均48時間程で、今年度が12月までで42時間程という結果であった。休校期間中の時間外勤務の減少によるもので、実態改善は難しかった ・業務見直しについては意見集約をしたうえで検討を進めている。
		働き方改革に係る教職員の意識改革	・休日出張や土曜授業の振休の確実な取得	・毎月開催の衛生委員会で心配な教職員について共通理解を図り、管理職面談や産業医による面談での改善策の提示	B	休日出張については、後に変更してもかまわないので必ず振休日を設定してもらうことはできた。しかし、確実に消化できたとは言えない。 ・毎月の衛生委員会で心配な職員についての共通理解を図ることはできたが産業医やSC面談にまで必ずしも繋げることはできなかった。
学力向上	授業の充実	アクティブラーニング型授業の実践	全職員による最低2回の授業参観の実施	2学期に約1か月の公開授業の期間を設けて実施し、評価シートを導入	B	・同教科の授業参観は活発であるが、他教科の授業参観がより活発になるように働きかけた。
			アクティブラーニング型授業をテーマとした研究授業及び授業研究会の実施	・本校におけるアクティブラーニング型授業の定義の確認 ・アクティブラーニング型授業に関する職員研修の実施 ・全授業者を対象とした最低1回以上のアクティブラーニング型授業実践	B	・授業評価アンケートの結果を授業担当者に報告し、これまでの授業の振り返りにも活用してもらうことができた。

				<p>の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニング型授業に関する教科会の実施</li> <li>・授業評価アンケートの実施と活用（各学年：年2回）</li> </ul>		
	家庭学習時間の増加	各学年家庭学習時間の増加	平日2時間の家庭学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅習時間調査等で生徒の取り組み状況を把握し、授業の工夫改善等を教科会で検討</li> <li>・調査の分析を通して、担任との二者面談や教科担当者面談の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの実施方法を工夫し、迅速な処理と生徒への還元ができた。昨年度よりも、宅習時間に伸びが見られる。</li> </ul>
キャリア教育 (進路指導)	夢実現に心を燃やし主体的に進路を切り拓く生徒の育成	進路情報の共有化と発信	進路環境や生徒の現状に関する情報の発信と共有化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年進路検討会、1～2年学力分析会の実施と充実</li> <li>・「進路ニュース」(年4回)の発行</li> <li>・進路委員を用いたキャリアガイダンス情報の提供</li> <li>・進路だより等を用いた高大接続改革に関する情報発信</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレ進路検討会の実施等、休校期間の有効活用ができた。進路だよりは月に1回のペースで発行できた。進路委員をもっと活用すべきであった。</li> </ul>
		教科指導力及び進路指導力の向上	各教科との連携強化による職員の教科指導力及び進路指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試説明会等参加の促進及び情報の還元</li> <li>・問題作成研修会参加の促進</li> <li>・高大接続改革に関する情報共有</li> <li>・大学入学共通テストプレテストに関する分析</li> </ul>	B	<p>コロナ禍のために研修会や入試説明会の中止が相次ぎ、情報収集や研鑽の場があまりなかった。共通テストプレテストの分析も教科任せになってしまった。</p>
		進路志望実現に向けた、生徒自身の主体性向上	進路志望実現に向け、生徒が主体的に選択し、探究し、活動する環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにおける模擬授業等への主体的参加の促進</li> <li>・キャリアガイダンス(出張講義)の実施(年間10回以上、平均参加者30人)</li> <li>・各種ボランティアやシンポジウム等への主体的参加促進</li> <li>・受験の手引きの活用促進</li> <li>・進路資料室の整備と利用促進</li> </ul>	B	<p>コロナ禍のために様々な行事が中止となり、活動の場が限られてしまった。キャリアガイダンスは参加者の平均が40名と、積極的な姿勢が目立った。資料の活用についても促すことができた。</p>
生徒指導	生徒指導の継続と徹底	基本的な生活習慣の確立	自己管理の徹底 <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容(身だしなみを整える習慣)</li> <li>・時間の厳守(遅刻を無くす)</li> <li>・礼節の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼節指導、整容指導、遅刻指導の実施・定期的に整容指導(検査)の実施</li> <li>・授業や集会で5分前に集合できるよう指導を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝課外の時間や各授業の始業時間に関して昨年より遵守できていたのではないかと思う。</li> <li>・学校生活時の整容に関し</li> </ul>

			(発声挨拶の徹底)			て大きく乱れている生徒はいない。ただ一部の生徒に軽微な違反が見られ、今後も継続的な指導を行っていききたい。
		通信機器の使用に関するマナーの育成 (SNSに関する指導)	通信機器の使用に関するマナーの育成 (SNSに関する指導)	SNS等のネットモラルに関する教育を授業や研修会等で実施する。	B	・スマホに代表される通信機器の進化が著しくその対応に苦慮している。今後は個人のモラルアップや人権の意識を高めるなど様々な場面で心の教育を徹底していききたい。
安全教育	交通安全教育と交通マナーの育成	自転車に関する交通法規矢ルール遵守の徹底	・定期的に自転車通学生に対して事故防止に関する研修会を実施する。 ・交通安全教育の一環で毎月22日に「交通安全の日」を設定し、正門と校舎に横断幕と垂れ幕を掲げ、生徒の目に触れさせることで交通安全に関する意識の高揚を図る	B	・大きな事故や違反は無かったことは良かった。ただ、自転車通学生へのマナーに関して外部から苦情の連絡が入ることがあり課題が残った。今後は交通安全の日の設定理由など集会等を利用して交通安全の意味や命の大切さを訴えていききたい。	
自主自律の精神	規範意識の高揚とリーダーの育成	一高祭体育部門や文化部門及び生徒会行事の充実	・生徒会を中心とした組織の中で生徒が企画運営に携わり、生徒達だけで学校行事等を充実させる。 ・リーダー研修会を実施し、生徒会や部活動等のリーダーを育成する。	A	・コロナ禍の影響で多くの行事が中止になった。文化部門をはじめ実施された行事に関しては生徒会が中心となって見事成功裏に終わることができた。 ・部活動リーダー研修会が開催できなかったことが残念であった。	
人権教育の推進	教育活動全体を通じた人権教育の推進	職員、生徒の人権意識の高揚	人権教育推進の年間指導プログラムの実践	・人権教育講演会の実施 ・教育相談部と合同の職員研修(年3回) ・各学年人権LHRを実施(年3回)	B	講演会について3部合同で行ったが、コロナ禍で2学年を2か所に分けて、サテライト形式で

						対応した。人権LHRは、実施を予定したが、3回実施できなかった。
	「命を大切にすることを育む指導」の推進	自他の「命」を尊重し、慈しむ態度と心構えを育む取組、及び自らの自尊心を高めるためのストレス対処に関する取組	教科指導や学年（学級）指導等、全ての場面で「命を大切にすることを育む指導」を根拠とした実践とストレス対処プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命を大切にすることを育む指導」プログラムの周知</li> <li>・授業、HR活動及び特別活動（部活動等）で、生徒が主体的に活動する内容を盛り込んだ取組の実施</li> <li>・校内研修や講演会の実施と職員の意識向上</li> <li>・ワークショップによるストレス対処プログラム</li> <li>・生徒人権委員会実施（月1回）</li> </ul>	B	本年度は、コロナ禍で、命を考えると機会が多かった。生徒人権委員会を中心に文部科学大臣のメッセージの朗読や印刷物の配布を行い、偏見や差別の防止に発展させることができた。講演とリンクさせ、ストレス対処のワークショップを行った。
いじめの防止等	健全な人間関係の構築	いじめ根絶に向けた取組	いじめ防止の年間指導プログラムの実践。アンケート結果への組織的対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ防止の日」（毎月10日1回実施）と「いじめを許さない宣言文」の宣誓（→いじめゼロを目指す）</li> <li>・全学年の生徒人権委員会主導でいじめ防止についてのLHRを実施</li> <li>・いじめについてのアンケート（4回）結果を受けての組織的対応</li> </ul>	B	いじめを許さない宣言は、生徒の発案で、復唱をクラスで積極的に行うよう放送アナウンス内容を変えて実施した。いじめ防止のLHRで時間を十分とることができなかったが、毎月の人権委員便りの働きかけを行った。いじめについてのアンケートでは重大な事案はなかったが、人間関係での行き違いがあり、学年、担任で対応を行った。
特別支援教育	気づきと理解に基づいた対応	特別な支援が必要な実態把握と具体的な支援策の検討・実施	生徒が安心して学校生活を送れる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な支援体制の構築（特別な支援や配慮を必要とする生徒への対応）</li> <li>・学年会、教育相談部会、校内委員会を通しての情報収集・共有と関係職員との連携</li> <li>・生徒理解研修による全職員の共通理解</li> <li>・SCや外部機関との連携</li> </ul>	B	部会や学年会、生徒理解研修を通して情報共有を行い、SCと連携して対応することができた。特別支援対象生徒を外部機関に繋がれたことは良かったが、ケース会議や校内委員会を充実させたい。
地域連携	地域と連携した	地域の小	様々な自然災	・年5回の学校運		・コロナの影響

携(コミュニ ティ・スクール など)	防災コミュニ ティ・スクールの 実働化	中学校や 自治会と 連携した 防災マニ ュアルの 有効活用	害に対応でき る防災マニ ュアルの有効活 用のために実 践的な避難訓 練の実施	営協議会の開催 ・一新地区の防災 訓練への生徒・職 員の参加 ・避難所運営に関 する防災講習会へ の職員参加	B	響で計画通り に実施するこ とはできなか ったが、実施 できた学校運 営協議会は充 実した内容と なった。 また、実践的 な避難訓練は 予定通り実施 することがで きた。消防署 から指摘を再 検討し次年度 に繋げたい。
--------------------------	---------------------------	--	--	--	---	--

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>学校関係者評価委員の皆さんから、学校評価アンケート結果や学校評価の自己評価を踏まえた意見や提言をいただいた。本校の教育活動全般については高い評価をいただいております、本校への期待の大きさが伝わる内容であった。主な意見や提言等に関しては以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から肯定的な評価が 90%を超える項目が多く素晴らしい学校経営がなされていると感じた。しかし、あまり当てはまらない、まったく当てはまらないも若干あり、そこに目を向けていくことも大事ではないか。</li> <li>・読書について、生徒、保護者、教職員で評価に差がある。何をもち「読書」というのか。「読書」に対する認識がどのようなものか、すり合わせると評価も違ってくるのではないか。</li> <li>・働き方改革については、月45時間以内は難しいが、オンラインが働き方改革の活路に繋がるのではないか。また、トップの姿勢が大切である。</li> </ul>
<h4>5 総合評価</h4> <p>本校教職員に対する学校評価アンケートでは、本年度の学校教育目標について、本校の教職員はすべて理解しているという結果であったことは評価に値すると思われる。</p> <p>年度当初に、各部で具体的目標ならびに達成のための方策も計画されたが、新型コロナウイルス禍で計画通りに行事や校外活動等を実施することができなかった、特に、進路指導や生徒指導、地域連携の面で当初予定していた具体的な方策を実施できなかったが、オンラインや等で代替措置も可能な範囲内で行うことができ、新たな発見となった。今後活かしていきたい。</p> <p>学力向上については、授業の充実のために職員で共通理解を図りながら授業参観や職員研修等を実施することで、生徒の授業評価も向上した。</p> <p>人権教育については種々の取組を行いながら、学期一回のいじめアンケートを丁寧に行いながら重大な事案に発展することを防ぐことができた。</p>
<h4>6 次年度への課題・改善方策</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革について、年度末反省を業務の精選・削減の観点から行ってきており、具体的な取組とともに職員の意識も高まってきている。今後も継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・グーグルクラスルームの導入等オンラインによる種々の取組を更に進め、コロナ禍への対応や業務削減に繋げていきたい。そのためには環境整備や職員研修等による個人のスキルアップが課題となる。</li> <li>・授業改善を更に進めるとともに、令和4年度の新学習指導要領から導入される「観点別学習評価」についての研究、理解を進めていく。</li> <li>・学校と保護者との連絡、連携における認識において若干の差が生じているところの分析と改善が必要である。</li> </ul>